

INDEX

- 会長挨拶、学長挨拶…………… P2
- 震災後の岩手大学の状況と取組…………… P3
- 同窓会連合の活動状況…………… P4~5
- 各同窓会の活動状況…………… P6~7
- 岩手大学の情報…………… P8



岩手大学同窓会連合会長挨拶

会長 桑島 博



平成 25 年 5 月 13 日の第 9 回岩手大学同窓会連合理事会にて、同窓会連合第 2 代目会長を拝命いたしました、桑島博でございます。本学同窓会の益々の発展・継続のために努力していく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

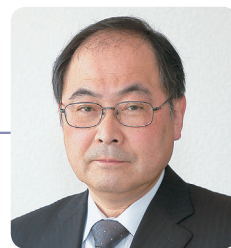
さて、平成 20 年に大学主催行事として始まり、平成 22 年より大学と同窓会連合との共催行事と位置付けて開催されて参りました「卒業生・修了生と学長との懇談会」は、本年 7 月の開催をもって通算 6 回目を迎えました。今回は盛岡において開催され、多数の同窓生の

方々に御参加をいただき、大学への御理解と岩手大学同窓生の絆を深めて頂いたものと存じます。来年は、関西地区での開催の予定で準備を進めております。懇談会では、学長はじめ副学長、各学部長から大学の様子をお伺いするとともに、質問や御意見を申し上げる絶好の機会ですので、進んで御参加いただくようお願い致します。

今後共、同窓会連合活動への御協力を切にお願い申し上げます。

震災後3年目を迎えて

岩手大学長 藤井克己



東日本大震災から早くも 3 年目の冬を迎えようとしております。震災直後の入学者も今では 3 年生。この 12 月から就職活動が本格的にスタートします。これで学士課程 4 学年のうち 3 学年が震災後の入学となりました。キャンパスからは急速に「震災色」が薄れつつあるようです。来年度から入学生は、震災時の中学生から小学生へと順次、繰り下がっていきますが、外から見えない心の傷は、若年層ほど深く癒しにくいといえます。したがって大学もこれからが本番で、一層の心のケアが必要になってくると考えます。

還暦を過ぎた世代にとって、1964 年の東京五輪は「戦後 19 年」、復興の象徴でした。そして 2020 年東京五輪は「災後 9 年」となります。そのとき次代を担う若い世代が、震災を乗り越え持続可能な社会に向けた展望を抱けるよう、被災地域に位置する国立大学の使命は大きいものがあります。私ども教職員一同、精励する所存でございますので、今後とも皆様の母校 岩手大学に、変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

東日本大震災に係る岩手大学の状況と復興支援の取組

平成23年3月11日（金）に発生した東日本大震災により、岩手県は甚大な被害を受け、岩手大学でも残念ながら前途有為の学生が1名犠牲となりました。心よりご冥福をお祈りいたしますとともに被災された方々には謹んでお見舞い申し上げます。

ここに岩手大学の震災後の状況とともに、教職員・学生が一丸となり取り組んでいる復興支援の活動をお知らせいたします。被災地復興には多くの時間がかかりますが、少しでも早い復興に向け様々な活動を行っています。

~2013年

岩手大学の東日本大震災復興支援への主な取組

平成23年3月11日（金）14:46分 東日本大震災発生（※盛岡市震度5強）

3月11日

●「危機対策本部」を設置

【岩手大学の被災状況】

①学生・児童・教職員の被災状況

犠牲者：1名（学部学生）、要支援学生：377名（24.10.1現在）、被災教職員：14名

②建物・設備に関する被害

建物：「危険」「要注意」はなかったが、天井の破損、水漏れ等はある。

設備：分析機器等、修理・メンテナンスが必要な物品あり。

3月12日～
3月24日

●学用品、ICT機器等の物資支援開始

●「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」の立ち上げ

（岩手大学被災学生への給付（10万円）を目的とした募金。計290名へ給付）

※同窓会連合も計8,583,770円を寄付。

4月1日

●「岩手大学東日本大震災復興対策本部」を設置

●移動診療車による被災動物の診療を開始

4月6日～

●多様な学生ボランティア活動

（25.10.31現在 延べ1,896名が活動）

4月29日～

●教職員によるボランティア活動

（23年10月までに延べ298名が活動）

10月1日

●「岩手大学三陸復興推進本部」及び釜石サテライトの設置（現地スタッフ派遣）

10月30日

●東京海洋大学及び北里大学と「三陸水産産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を締結

●三陸水産産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウムの開催

11月7日

●岩手県沿岸市町村復興期成同盟会（沿岸13市町村で構成）と「岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的な発展に向けた連携・協力書」を締結

平成24年

4月1日

●「岩手大学三陸復興推進機構」を設置

岩手大学三陸復興推進本部を発展的改組し、学則に基づく全学組織に格上げ。復興支援に携わる教職員数を拡充し、復興支援体制をさらに強化。

4月3日

●「岩手大学地域防災研究センター」を設置

10月1日

●「久慈エクステンションセンター」を設置

11月2日

●「宮古エクステンションセンター」を設置

平成25年

3月18日

●「釜石サテライト」移転

釜石市平田地区に新施設を建設し、釜石サテライトを移転。同施設には「岩手大学三陸水産研究センター」と「こころの相談ルーム」も開設。

4月1日

●「三陸水産研究センター」を設置

釜石サテライト内に岩手大学三陸水産研究センターを設置、隣接する岩手県水産技術センター等と連携しながら、三陸水産産業の復興活動を推進。

4月3日

●「大船渡エクステンションセンター」を設置

大船渡市に大船渡エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト、久慈・宮古エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。

5月11日

●「釜石サテライト竣工及び三陸水産研究センター設置記念式典」を実施

釜石サテライトの竣工と三陸水産研究センターの設置を記念し、式典を実施。

6月29日

●県内の学生と被災地の高校生が共に学ぶワークショップを開催

震災からの復興を担う人材の育成へ繋げることを目的として開催。高校生と学生がともに被災地（故郷）の復興と未来について考え、若者の立場から意見を提言。

7月10日

●下村博文文科科学大臣が釜石サテライトを訪問

被災地でボランティア活動を行っている岩手大学、岩手県立大学の学生らと意見交換。

8月12日

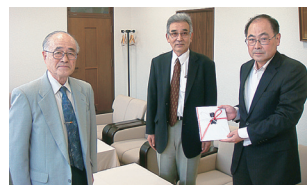
●第1回海洋・水産研究チャレンジセミナーを開催

東京海洋大学・北里大学と連携して実施しているSANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業の一環として、いわて海洋研究コンソーシアムと共に、海洋や水産研究に携わる各大学の震災復興に向けた研究内容を高校生や市民の方々に伝えることを目的として開催。セミナーには高校生や一般市民約100名が参加。

10月3日～

●後期全学共通教育科目として「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設

震災からの復興について学術的観点から検討し、復興への関心を高めるとともに、復興を担う次代の人材を養成することを目的として、東日本大震災の概要、本県における被災状況及び復興に向けての課題・方向性などを総括的に学習し、その上で、復興への岩手大学の取組みを事例的に学習。



23.9.28 / 同窓会連合から義援金贈呈



23.10.1 / 釜石サテライト設置



23.10.30 / 3大学連携推進基本合意書調印式



25.3.18 / 釜石サテライト移転



25.4.3 / 大船渡エクステンションセンター設置



25.7.10 / 下村文科大臣が釜石サテライトを訪問



25.8.12 / 第1回海洋・水産研究チャレンジセミナーを開催

平成24年度事業報告について

1. 理事会の開催

第7回：平成24年6月11日(月)
 場所：岩手大学事務局第一会議室
 議題 1.平成23年度事業報告(案)について
 2.平成23年度決算(案)について
 3.平成24年度事業計画(案)について
 4.平成24年度予算(案)について など

第8回：平成24年11月19日(月)
 場所：岩手大学事務局第一会議室
 議題 1.平成25年度の卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)について
 2.次期役員について など

2. 運営委員会の開催

・平成24年4月～平成25年3月まで計2回開催。

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)」の開催

・大学と共に主催し、懇談会及び懇親交流会を開催した。
 【内容】大学側から大学の現状と取組状況の紹介、意見交換など
 日時：平成24年6月30日(土) 15時～
 開催場所：アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)
 参加者：131名

4. 会報の発行

平成24年12月 第4号発行
 (掲載内容)：同窓会連合義援金の御礼、平成23年度事業報告、卒業生・修了生と学長との懇談会(第5回)の報告、各同窓会の情報、大学の情報 など

5. 在学生への支援

・大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。(金銭補助)

※参考 ◎H24年度国際ボランティア等参加者支援事業
 (申請者：12名、採択者：9名)

◎H24年度海外留学派遣支援事業 (採択者：1名)

6. ガンダイニングへの協賛

・岩手大学紹介番組「ガンダイニング」(IBC岩手放送)への協賛を行った。

【主な放送内容】

・震災復興の取組、運動部の活躍、大学行事の紹介 など

【放送日時等】

平成24年10月23日(火)～平成25年2月26日(火)

毎週火曜日 21:54～(3分間)計13回放送

平成25年3月24日(日) 特別版(1時間)放送

エンディングでの表示

“私たちは岩手大学を応援しています 岩手大学同窓会連合”

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を継続して行った。

※集められた義援金については、大学で行っている「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」に寄付され、在学生の修学支援資金として使用されている。

8. 開学記念行事への支援

同窓生に対し、岩手大学開学記念行事(平成24年6月9日(土))への参加を呼びかけた。

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式(平成25年3月22日(金))に祝い花を贈った。

平成25年度事業計画と実施状況について

1. 理事会の開催

第9回：平成25年5月13日(月)
 場所：岩手大学事務局第一会議室
 議題 1.平成24年度事業報告(案)について
 2.平成24年度決算(案)について
 3.平成25年度事業計画(案)について
 4.平成25年度予算(案)について

5.卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)について
 6.次期役員について
 7.卒業生・修了生と学長との懇談会(第7回)開催場所について など

2. 運営委員会の開催

計2回開催 平成25年4月25日(木)
 平成25年9月25日(水)

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会(第6回)」の開催

・岩手大学との主催事業として、平成25年7月13日(土)に盛岡市を会場に実施した。

・同窓生への周知として、盛岡近郊在住の卒業生に対し往復ハガキによる案内を出した。また、岩手日報への広告を出し、盛岡市を中心に周知を行った。

・懇談会の前に、大学構内見学の時間を設けた。

4. 会報の発行

例年同様、12月末頃に会報第5号を発行する。

5. 在学生への支援

大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。(金銭支援)

6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」(IBC岩手放送)への協賛を引き続き実施する。

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

被災した学生を支援するため、義援金の募集を継続する。

8. 開学記念行事への支援

毎年6月に開催している岩手大学開学記念行事への支援を行う。(同窓生に対する行事への参加の呼びかけ)

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式に祝い花を贈る。

《平成24年度 岩手大学同窓会連合 決算》

【収入の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	2,000,000	2,000,000	0	4同窓会×500,000円
前年度の繰越金	1,366,053	1,366,053	0	
その他収入	311	380	△69	利息
計	3,366,364	3,366,433	△69	

【支出の部】

(単位：円)

項目	予算額	決算額	残 額	備考
事業費	1,530,000	1,171,728	358,272	①卒業生・修了生と学長との懇談会への協力 309,940 (旅費、八万十代、会場費等補助) ②会報の発行 504,288 (印刷費、発送補助費) ③在学生への支援 200,000 (学生支援寄付金) ④ガンダイニングの協賛費 157,500
会長活動経費	100,000	41,500	58,500	
会議費	6,000	2,300	3,700	(理事会用お茶代)
事務費	34,000	4,830	29,170	(振込手数料)
予備費	1,696,364	0	1,696,364	
計	3,366,364	1,220,358	2,146,006	

収入決算額－支出決算額＝繰越額 3,366,433－1,220,358＝2,146,075

卒業生・修了生と学長との懇談会（第6回）の開催

平成25年7月13日（土）、盛岡市内のホテルを会場に「卒業生・修了生と学長との懇談会（第6回）」が開催されました。平成20年度から毎年実施されているこの懇談会は、盛岡市での開催を皮切りに、八戸市、仙台市、札幌市、東京都で行われ、盛岡市での開催は2回目を迎えました。今回は、盛岡市近郊在住の方を中心に115名の参加がありました。

懇談会では、最初に藤井学長から、大学の歴史や強み、同窓会連合設立に至る経緯、女子学生の増加など大学の変化などの報告を含めた挨拶がありました。次いで桑島同窓会連合会長から、会長着任の挨拶、被災学生への義援金贈呈と震災復興支援について、また、今後の同窓会連合について「同窓会連合発足から5年目になるが、皆様のご意見をいただきながら、設立の趣旨に沿って各同窓会と岩手大学の発展に寄与し、地域社会に貢献できるように努力していきたい。」と挨拶がありました。

続いて、岩渕理事（総務・地域連携・国際連携担当）から、東日本大震災からの復興への取組状況について、高畑理事（教育・学生担当）から、学生の就職状況や学生寮（自啓寮・同袍寮）の改修、環境や男女共同参画への取組について、さらに各学部代表者から、最近の学部の取組等について説明がありました。

その後の質疑応答・意見交換では、地域連携に関する取組、ILCに関する岩手大学の取組、英語教育に対する考え方など、岩手大学に関する幅広い様々な質問および意見が出され、参加者の母校への関心の高さを窺い知ることができました。

懇談会の最後には、各同窓会長から挨拶があり、最近の活動についての報告などがありました。

懇談会終了後に行われた懇親交流会では、学部年代に関わらず親睦を深め合い、最後は卒業生全員で学生歌を歌い、盛会のうちに終了しました。

来年度は7月19日(土)に大阪市を会場に開催する予定ですので、ぜひご参加ください。
詳細については決まり次第ホームページ (<http://alumni.iwate-u.ac.jp/>) に掲載いたします。



懇談会の様子①



懇談会の様子②



懇親交流会の様子①



懇親交流会の様子②

ガンダイニングへの協賛について

岩手大学同窓会連合では、岩手大学の様々な活動やあまり知られていない魅力を卒業生や地域の皆様に知ってもらい、より親しまれる大学になれるよう岩手大学を応援するために、岩大を紹介するテレビ番組「ガンダイニング」の協賛を行っています。

この番組は、大学内の様々な取組や研究、学生の姿を紹介するミニバラエティ番組で、今年で第9回を数えます。アシスタントナビゲーターを務めるお馴染みの岩手大学イメージキャラクター「がんちゃん」をはじめ、今年度も現役の岩手大学生がリポーターを務め、大学の“いま”を元気に伝えています。

興味のある方はぜひご覧ください！

【平成25年度放送日程】

IBC岩手放送（TBS系列）

平成25年10月1日(火)～平成25年12月24日(火)予定
毎週火曜日／18:55～18:58 計13回



がんちゃん

※県外在住の方は、岩手大学ホームページ (<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/gandaining.shtml>) から昨年度分の放送をご覧ください。



リポーターの藤田さん(左)と関向さん(右)

「海外留学派遣事業」・「国際ボランティア等参加者支援事業」への支援



国際ボランティア等参加者の様子

岩手大学同窓会連合では、平成22年度から在学生への支援として、「海外留学」及び国際教育交換協議会（CIEE）が主催する「国際ボランティアプロジェクト」、「オセアニア・ボランティア」等に参加する学生に対し、大学を通じ参加経費の一部支援（年間20万円）を行っています。「海外留学」とは、主に岩手大学が学生交流協定を締結している海外大学への交換留学や語学研修などで、「国際ボランティアプロジェクト」「オセアニア・ボランティア」等は、城や教会の修復、社会福祉、子供達との交流、環境保護に関するボランティアなどを行うものです。これらの事業に参加する学生には、語学の習得はもとより、普段の日常生活では体験できない多くの貴重な体験を通じ異文化交流の促進・国際理解力を深めることが期待され、今後の学生生活さらには社会に出てからの大きな糧となっています。

同窓会連合はこれからの時代を担う岩大生を応援していきます！

【平成24年度実績】

- 国際ボランティア等参加者支援事業採択者 9名（申請者12名）
- 海外留学派遣支援事業採択者 1名

七友会

人文社会科学部 同窓会

Shichiyukai



人文社会科学部就職ガイダンス懇親会風景

<活動報告>

◆就職活動支援

七友会では人文社会科学部在学学生への就職・就業支援に力を入れています。今年度も人文社会科学部の就職委員会と連携して下記のような活動を行いました。講師およびオブザーバーは毎回、人文社会科学部OBならではの多彩な顔ぶれです。

①2年生向け「キャリアガイダンス～働くことを考える」(第2回): H.25年2月22日(金)岩手大学学生センターB棟多目的室で開催。第1部は講師からの話題提供(各講師の仕事とその経験を通して今学生に伝えたいこと)、第2部のテーブルトークでは就業・就職に関して参加学生との質疑応答が行われました。講師は足立慎吾氏(株)相鉄エージェンシー)、高橋真樹氏(株)のびあ代表取締役)、西條由依氏(日本全業工業(株))、菅原剛氏(株)JTBコーポレートセールスの4名、他に7名のOBがオブザーバーとして参加。

②進路選択セミナー(人文社会科学部全学年対象):H.25年6月21日(金)「キャリアガイダンス」を新たに「進路選択セミナー」と改め、人文社会科学部の学生に就職を含め将来の進路を考える際の選択肢を広げてもらうことを目的で開催。第1部は「講師が語る仕事の実像と伝えたいこと」(17:00~18:30):講師は栗林健司氏(北海道放送(株)、大阪支社)、明地幹子氏(盛岡市役所、市民登録課)、大澤雅昭氏(春日部市役所、福祉部長)、塩田勝美氏(株)日本旅行、総務人事部長)の4名。第二部は「疑問解消のためのフリートーク」(18:40~19:30):さらに4名のオブザーバーが加わり、公務員関係と民間企業の2つのテーブルに分かれてフリートークタイム。

③学部就職ガイダンス(人文社会科学部3年次対象、人文社会科学部教育後援会と共催): H.25年11月12日(火)に開催。第1部は、人文社会科学部OBの堀浩樹氏(マニユライフ生命保険株式会社盛岡営業所所長:人文社会科学部1期生)の講話「職業と自己実現-生きるための職業、活きるための職業」(学生センターG1教室)、第2部は中央食堂に場所を移し、現4年生の就職内定者による就職活動体験報告会、情報交流、懇親会が行われました。

◆人文社会科学部・学術講演会(奨学寄附金による開催支援)

今年度の学術講演は以下の2つが予定されています。

- ①「日米関係からみた福島原発事故」秋田大学教育文化学部教授 村上東氏(H.25年12月6日(金)G22)
- ②「東京オリンピック開催とスポーツ振興」文部科学省スポーツ・青年局スポーツ振興課長 森岡裕策氏(H.26年1月31日(金)学生センターG19教室)

◆七友会ホームページ(<http://jinsya.com>)

七友会HPは随時更新しています。最新の活動状況、過去のイベント等、七友会の詳細な情報が閲覧可能です。同窓生の住所、連絡先等の登録、データ更新も七友会HP上で行えます。どうぞご利用下さい。

<その他の活動>

同窓会報『七友会だより』の発行[第36号(H.25年3月)]/評議員会の開催(H.25年6月22日(土):アイーナ(岩手県民交流センター)711号室)/七友会設立30周年記念事業DVDの配布(H.25年3月)

一祐会

工学部 同窓会

Ichiyukai

岩手大学教職員、同窓生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成24年11月より平成25年10月までの一祐会の活動報告をさせていただきます。

●学生向け支援事業の実施

企業合同説明会を、平成24年12月21日(金)12:25~16:45に、一祐会館2階大会議室において開催しました(写真)。同窓生が勤務する企業を始め20社のご参加を頂き、説明会後の交流会も盛会のうちに終えることができました。また、卒業生等による学生向け講演会3件の開催にも協力しました。

●会誌「北社」61号の発行

平成25年3月1日に会誌「北社」を16,800部発行しました。今回は、一祐会創立70周年記念行事開催の報告や会員の思い出に関する寄稿と、岩手大学地域防災研究センターの紹介を特集記事として組んでいます。また、例年になく多い、7名の退職教員からの寄稿をいただきました。

表紙には、東門すぐのところにてきた総合教育研究棟(環境系)の増築部分(1階には、復興祈念銀河ホールが設置)の写真を、裏表紙には、情報メディアセンター・ミュージアム主催の企画展「盛岡高等工業の面影」の紹介写真を掲載しています。

展示では、設置に向けた地元の誘致活動を伝える資料もあり、地域との深い繋がりを感じさせるものでした。

●平成25年度一祐会定期総会の開催

平成25年5月18日(土)14:00~18:00に、定期総会・講演会は岩手大学工学部テクノホールにおいて、懇親会は工学部生協1階において開催しました。講演会では、本学の地域防災研究センターの塚茂樹教授より、「地域防災の要として」という演題でお話しをいただきました。総会においては、定例の議題に加え、会員名簿の発行と個人情報保護法への対応等についても審議しました。

なお、来年度の定期総会は、工学部創立75周年記念式典が開催される平成26年5月23日(金)の午前に開催することとなりました。会則で定める「5月の第3土曜日」からの変更となりますので、一祐会会員の皆様にはご注意くださいようお願い致します。



企業合同説明会風景

北桐会

教育学部 同窓会

Hokutoukai

平成25年度の北桐会は、6月29日に評議委員会が開催され、年度計画の承認など、常任理事会を中心に会務を進めて参りました。特に本年度は2年間に渡り実行委員会で準備して来た創立60周年行事について報告いたします。

教育学部同窓会「北桐会」は創立60周年を迎え、去る11月9日に記念事業として記念講演会、記念式典並びに記念祝賀会を開催いたしました。また、記念誌として創立50周年から60周年「10年の歩み」を発刊いたしました。同時に記念名簿も8月に発刊いたしております。

講演会は100名に及ぶ出席者を数え、岩手大学平泉研究センター特任教授伊藤博幸先生による「古代蝦夷の英雄アテルイはなぜ敗れたか」の演題による講演を頂き、東北地方の古代史のロマンを説かれ、多くの参加者を魅了されました。

記念式典は盛岡グランドホテルで挙行政され、始めに黒川國児会長から60年の歩みを振り返った思いと、100周年の未来に向けた抱負が述べられました。祝辞は高畑義人岩手大学理事・副学長が藤井克己学長の祝辞を代読されました。続いて功労会員の表彰があり、前会長中村順良、元会長藤原隆男、両先生に黒川会長から功労賞と記念品が贈呈されました。

記念祝賀会は同会場にて、黒川会長の挨拶に続き、遠藤孝夫教育学部副学部長の祝辞があり、教育学部の抱える改革についての説明と同窓会への協力を求めるお話がありました。次に今

年解散いたしました(財)岩手教育文化センター石川桂司元理事長からセンターの設立経緯と34年間の活動実績及び、解散に至った説明があり、岩手大学へ奨学寄付金として1億8千165万6,952円の寄付をされた報告がありました。乾杯の発声は桑島博岩手大学同窓会連合会長によりなされ、70名の参加者による祝宴が行われました。スピーチとして千葉県よりご参加頂いた根森洋子会員と、北海道からのご参加の山田進会員から、懐かしい学生時代の思い出を語られました。

今年度中に発刊予定の「北桐」には60周年特別記念号として準備を進めておりますので、どうぞご期待ください。

6月に開催されました岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会は盛岡会場で開催され、北桐会の会員の多くの皆様にもご出席頂きました。御礼申し上げます。



「北桐会」創立60周年記念式典・祝賀会 集合写真

北水会

農学部 同窓会

Hokusuikai

岩手大学農学部は創立110周年を迎え、平成25年5月31日(金)に記念行事が行われました。実際は昨年平成24年が110周年目でしたが、記念行事を耐震改修工事中の旧盛岡高等農林学校本館(現附属農業教育資料館 国重要文化財)大講堂で行いたいという強い希望から、震災で工事完了がずれ込んだ本年に行われました。100年前の創立10周年記念式典も明治天皇の崩御のため、新築落成したばかりの同じ大講堂で1年遅れて挙行政された奇しき歴史があります。

【記念式典・記念講演会】

記念式典は長澤孝志農学部長の挨拶にはじまり、藤井克己学長の祝辞、来賓として文部科学省専門教育課 内藤敏也課長、岩手県知事代理の千葉茂樹副知事から挨拶をいただきました。式典に引き続き記念講演会が開催されました。TPP交渉などで大変お忙しい中、まげて引き受けいただいた農林水産省 皆川芳嗣農林水産事務次官から講演をいただきました。皆川事務次官は中学から高校2年生まで盛岡市で学ばれておられ、殊の外岩手に思い入れがあるとのことでした。

式典、講演会会場の大講堂は照明など創建当時に復元され、100年前の創立10周年記念式典を彷彿とさせられるような雰囲気の中、厳かに執り行われました。

【祝賀会】

記念祝賀会は会場をホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイ

ングに移し、参列者約130名で、110周年の節目を懐かしく、和やかに、共に祝い合いました。



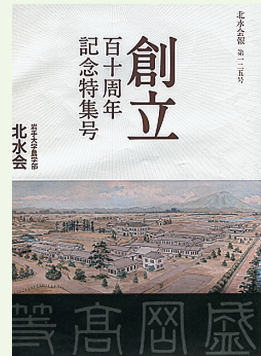
農学部創立百十周年記念式典

【北水会報 創立百十周年記念特集号の発刊】

当会では夏と冬の年2回、同窓会誌「北水会報」を定期発行してまいりました。本年夏号第125号は「創立百十周年記念特集号」として9月に発刊しました。

創立記念特集号はこれまでも節目々々に会員の寄稿を主体に発行してまいりましたが、今号は前100周年からの「10年の歩み、動き」を記録として後代に残すことに主眼をおきました。その主なものは、「式典、記念講演、祝賀会の様子」「農学部10年の動き(農学部110周年記念誌抜粋)」「母校と北水会の動き(年譜)」「三陸復興母校の取り組み」「附属農業教育資料館 耐震改修の記録」などです。

余分に作成し残部がありますので、希望者には提供が可能です。



同窓会誌「北水会報」
創立百十周年
記念特集号(第125号)

ルース駐日米国大使(平成25年5月当時)が来学

5月23日、ジョン・V・ルース駐日米国大使(平成25年5月当時)が岩手大学を訪問し、学生との意見交換会を行いました。

この意見交換会は、ルース大使が同日午後開催される全国経済同友会セミナーでの基調講演のため盛岡市を訪問するにあわせ、日本の学生との意見交換を好むルース大使の希望により実現しました。11名の岩手大学生が、「起業力」、「女性の社会進出」、「若者のグローバル化」の3つをテーマにルース大使と熱く議論を交わしました。

冒頭、ルース大使は「夢や目標があるならば、是非、リスクを負ってでも挑戦して欲しい。たとえ上手くいかなくても、それは失敗ではなく経験を積んだということ」と述べ、挑戦することの大切さを訴えました。

学生からの「リスクを取ろうとしない日本人の意識を変えるには」との質問には、「そのような意見をしばしば耳にするが、日本は民主的で豊かな国なのだから、夢や目標があるならば障害に屈することなく挑戦して欲しい。私がシリコンバレーで弁護士として働いていた頃の経験で言えば、失敗したことが無いという起業家はおらず、皆失敗を教訓に成長を遂げていた」と激励を送りました。

また、海外で研究に携わりたいという大学院生に対しては、「是非アメリカに来て研究をして欲しい。アメ

リカで研究することのメリットは、最先端の研究者と連携できることと英語を学ぶことができること。アメリカで学んだことをきっかけに、活躍の機会は全世界に広がる」と呼びかけました。

最後にルース大使は参加者全員に対して、「若い皆さんが日本の未来を創っていく。だから、夢や目標を是非成し遂げてほしい。また、周囲の人に助けを求めることを恥ずかしくがってはいけない。助けを求めたとき、あなたのことを支えたいと思っている人の多さを知ることができるのだから」と締めくくりました。

参加した学生からは、「ルース大使が日本の若者にかかる期待の大きさを感じた」、「夢に向かって、今日からまた挑戦を続けて行きたい」との感想が述べられ、意欲を新たにされた様子が窺えました。



意見交換後、握手を交わす参加学生たち



大使との記念写真

陸上競技部、インカレで躍動! 教育学部田村さん(4年)・ 高橋さん(3年)インカレW準V!



左から、陸上競技部長の清水教授、田村さん、高橋さん

9月6日から8日にかけて東京・国立競技場で開催された第82回日本学生陸上競技対校選手権(インカレ)で本学の田村友紀さん(教育4年・盛岡女子高校=現盛岡誠桜高校出身)と高橋英輝さん(教育3年・岩手県立花巻北高校出身)が揃って準優勝に輝きました。田村さんは女子200メートルで24秒23、高橋さんは男子1万メートル競歩で40分22秒88の記録でした。

また、田村さんと高橋さんは10月に天津(中国)で開催された第6回東アジア競技大会の代表選手にも選出されました。残念ながら、高橋さんが出場予定だった競歩は規程の参加国数に満たなかったため競技中止となりましたが、田村さんは女子400メートルリレーの日本のアンカーを務め、2位の成績を残すなど活躍しました。



インカレで走る田村さん

農学部附属の2施設がオープンしました

本年4月にオープンした動物病院新棟とリニューアルオープンした農業教育資料館の2つの農学部附属施設について御紹介します。

○動物病院新棟

盛岡高等農林学校(現岩手大学農学部)の設立時から地域の動物の健康を守るため長い歴史を刻んできた農学部附属動物病院に、新棟(小動物診療施設棟)がオープンしました。

動物病院新棟は、最新の診療機器を備えた小動物診療用の動物病院と岩手大学・東京農工大学共同獣医学科の講義実習室が入る複合施設となり、広く明るい待合室も特徴です。

今後も農学部附属動物病院は、地域の動物病院と連携を図りながら、東北地方の獣医診療の中核的施設として役割を果たしていきます。

○農業教育資料館

平成24年度に耐震改修が行われていた農学部附属農業教育資料館がリニューアルオープンしました。

農業教育資料館は、わが国最初の高等農林学校として設置された盛岡高等農林学校の本館として明治45年に完成し、事務局棟として使用されたのち、昭和53年からは農学部附属農業教育資料館に転用され今日に至っています。また、明治期に設置された国立学校の施設として現存する数少ない遺構であることから、平成6年には国の重要文化財(建造物)に指定されています。

館内には盛岡高等農林学校時代に使用されていた教材用標本、図譜類などわが国の寒冷地農業に関する歴史的資料のほか、盛岡高等農林学校の卒業生である宮沢賢治が使用した地質調査用具や賢治が執筆した卒業論文「腐植質中ノ無機成分ノ植物ニ対スル価値」など貴重な資料が展示されており、全国の宮沢賢治ファンあこがれのスポットにもなっています。

再塗装も施され、当時の姿によみがえった資料館には是非お越しください。



動物病院新棟



農業教育資料館